

お母さんから赤ちゃんへ感染する（母子感染）病気があります。

何らかの病原体（細菌・ウイルスなど）が、妊娠中・分娩中・産後にお母さんから赤ちゃんに感染することを「母子感染」といいます。妊娠前から元々その病原体を持っているお母さん（キャリアといいますが）もいれば、妊娠中に新たに感染するお母さんもいます。

赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5か条

★妊娠中は家族、産後は自分にワクチンで予防しましょう！

妊娠中は生ワクチン（風しんワクチン・麻しん風しん混合ワクチン・水痘ワクチンなど）は接種できません。妊娠中は、家族など周囲の方が予防接種を行ない、妊婦に感染症をうつさないようにしましょう。

★手をよく洗いましょう！

手洗いは感染予防の基本です。外出後はもちろん、調理時に生肉を扱う時、ガーデニングをする時、動物（猫など）の糞を処理した時は、特に丁寧に手を洗いましょう。（使い捨て手袋を着けることも予防方法の1つです。手袋を外した後も手は洗いましょう。）

★体液に注意！

尿・だ液・体液などには感染症の原因となる病原体が含まれることがあります。家族のオムツ交換後も丁寧な手洗いが必要です。

家族でも歯ブラシ等は共有せず、食べ物の口移しはやめましょう。

性行為で感染する性感染症（梅毒など※下記参照）も注意しましょう。

★しっかり加熱したものを食べましょう！

生肉（火を十分に通していない肉）、生ハム、サラミ、加熱していないチーズなどは感染症の原因となる病原体が含まれることがあります。

★人が混み合っている場所は避けましょう！

インフルエンザなど感染症が流行している時は、人ごみを避け、外出時にはマスクを着用しましょう。



日本周産期・新生児医学会、日本小児科学会、日本産婦人科学会、日本産婦人科医会 出典より引用

要注意！！

梅毒

妊婦が梅毒に感染していると、胎盤を通して赤ちゃんも感染し、死産・早産・新生児死亡・奇形が起こることがあります。（先天梅毒）妊娠中にパートナーから感染したという報告があります。

（梅毒の特徴）

梅毒は性感染症です。感染後、経過した期間によって症状（感染部位に痛みのないしこり、全身性発疹など）が異なります。経過の中で症状が消失する時期がありますが、梅毒が治ったのではなく、進行しています。

（予防方法）

性行為の際のコンドーム使用が勧められますが、パートナーに症状がある場合、症状がある箇所と皮膚が接触することで感染するため、予防しきれないことがあります。症状がある際は性行為を控え、早めに受診しましょう。

要注意！！

風しん

妊婦が妊娠初期に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの障害がある赤ちゃんが生まれることがあります。（先天性風しん症候群）

（予防方法）

妊婦健康診査で風しんの抗体価を持っていない、あるいは抗体の値が低い場合は、同居の家族など周囲の方が予防接種を受けましょう。妊婦は、マスク・手洗い・人混みを避ける等で感染予防に努めましょう。

★神戸市では風しんの予防接種の一部助成を行っています。助成対象者については神戸市HPでご確認ください。

神戸市風しん予防接種

検索



ご相談は神戸市保健所（078-322-6789）、
または各区役所・支所こども保健係 まで